ハとネットワーク

心豊かな人づくりのまち
富士駅北

△甲子(きのえね)さんは駅北地区の代表的な祭り
〔写真：河野芳夫さん(富士町)〕

▷人　　口　16,713人
▷世帯数　4,928世帯
(61年7月1日現在)
▷面　　積　5.93平方キロメートル

富士駅北地区は、旧富士市の中心街を取り囲む、国鉄富士駅の北側に広がる地区です。このあたりは昔、富士川が乱流していて、わずかの微高地に集落が点在していたにすぎませんでした。

しかし、古郡孫太夫父子三代にわたる治水事業の完成で、いわゆる加島五千石、加島二十九ヵ村が開拓されました。そして、今のような繁栄をもたらしたのは、富士製紙第八工場（今の本州製紙）ができたためと、地区民の熱心な誘致運動により、明治四十二年、国鉄富士駅がこの地に開駅したためです。地区の中心、富士商店街は昭和三十七年からの駅前再開発事業で様相も一変し、近代的な町並みとなり、さらに、最近、営業時間を午後九時まで延長する店も出て、商店街の活性化に一役買っています。地区は、交通の要としての位置にあり、生活施設も整っているので住宅地ともなっています。

また、五味島から本市場にかけて、土地区画整理による新しいまちづくりも進められています。

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。9月は天間、10月は鷹岡地区です。連絡先…市内永田町1－100 市広報広聴課☎51－0123　内線2822、締め切りは毎月15日です。

おじゃまします
親子で行事に参加
中島下　海野さん一家

今回は、市の行事を利用して、親子のコミュニケーションを深めている中島下の海野さん一家の登場です。

「私、毎回広報ふじが来るのを楽しみにしているんですよ」と、広報担当者を喜ばせてくれたのがお母さんの昌子さん。

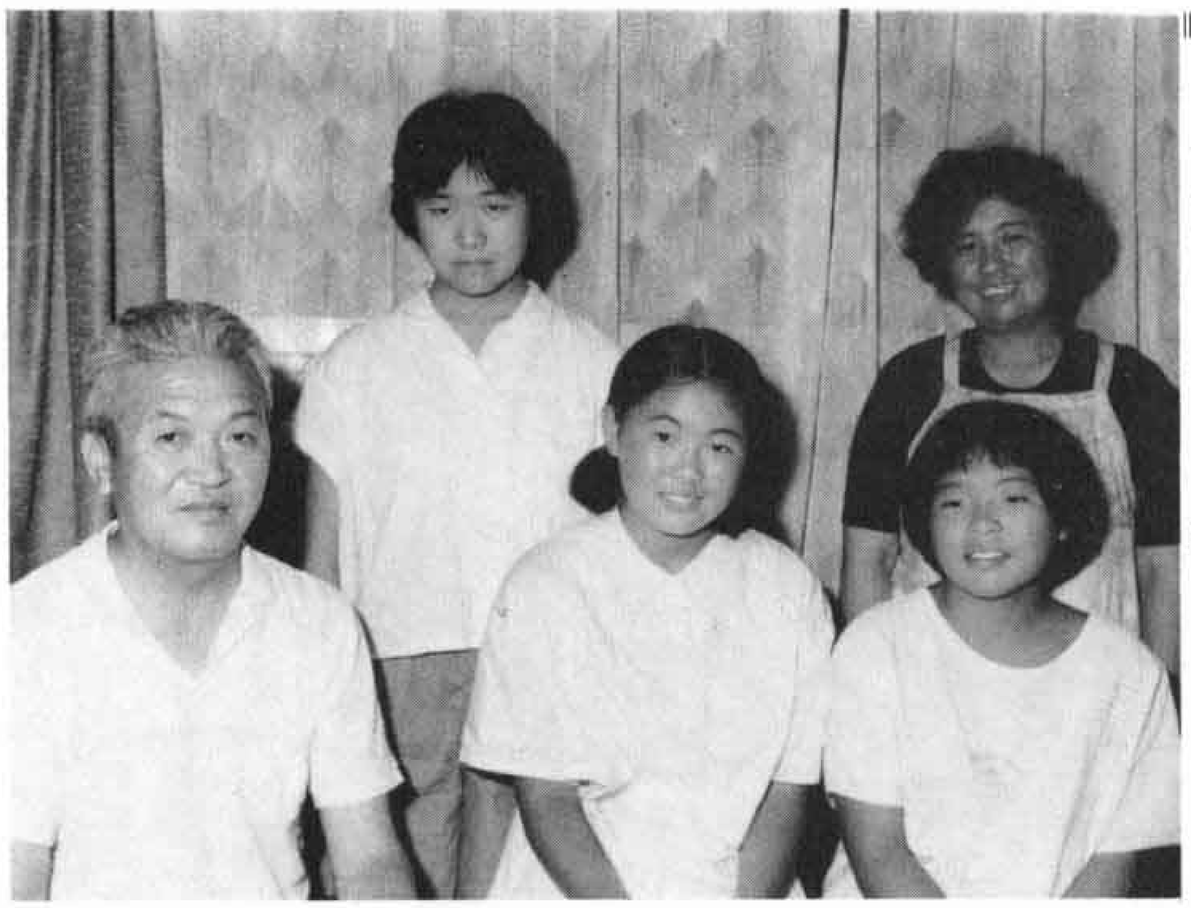
それもそのはず、昌子さんはこれまで、星座教室・親と子の市政教室等、市主催の行事に数え切れないほど参加してきました。広報ふじはその情報源だったわけです。

ですから、三人の娘さん（長女暢子さん、次女敏子さん・三女崇子さん）たちは、活動的なお母さんに連れられて、いろいろなことを体験して育ちました。

「星座教室で見た丸火の美しい星や、市民でありながら知らなかった文化財など勉強になりました」と長女の暢子さん。

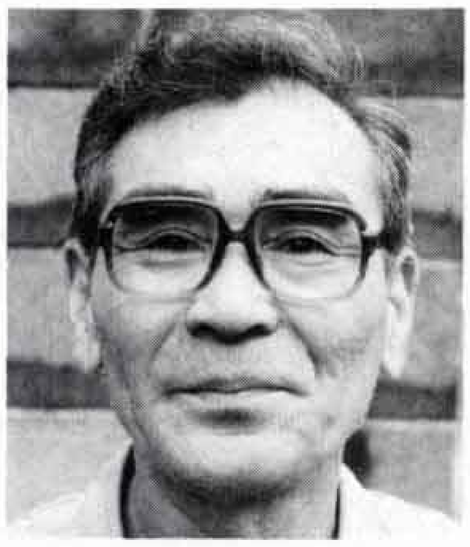
親子ジョッギング教室のときは、往年の長距離ランナーであるお父さん（享さん）がピンチヒッターとして参加し、子供たちに抜かれてしまうというハプニングも。

海野さん一家の方針は「言いたいことが言い合える親子関係」。市の事業に親子で参加し、コミュニケーションを深めてきたので、いまのところ方針どおり。こんなに上手に利用している家庭も少ないのでは…。


◁前列右から崇(たか)子さん、敏子さん、享さん
後列右から昌子さん、暢(のぶ)子さん

まちか

我がまちを語る



長谷川忠好さん

本市場(62歳)

祭りや行事に熱心

江戸時代、吉原宿と蒲原宿の間の宿として本市場宿ができ、駅北地区は東海道の沿線として発達しました。

昔は、農家が多く、戦前は梨畑も多く見られました。米之宮浅間神社周辺や川の土手には、竹が群生し、子供のころは竹とんぼや竹鉄砲などをつくり、よく遊んだものです。いまの子供たちは、遊び場が減ったという点ではかわいそうですね。

国道一号線は一時、富士川橋から本市場まで車がつながるほど渋帯し、住民としては困りましたが、交通の便がよいというのは、やはり発展の原因でしょう。

駅北の人々は、地域の祭りや行事に熱心で、世代間や住民間のギャップが少ないのが特徴だと思います。若い人たちの活躍で、まだまだ発展すると思います。

クローズアップ人

富士まつりでデビューした
カラーガード隊 初代隊長

早房徳子(はやぶさのりこ)さん

東宮島(22歳)

カラーガード隊とは、元来は国旗などをガードするという役割から出発しましたが、今では、バレードの先頭で旗を持って進む女性のチームとして知られています。

富士市のカラーガード隊は、消防音楽隊としては県下で初めて結成され、ことしの富士まつりで、さっそうとデビューしました。

早房さんは、その初代隊長。隊員は赤を基調としたコスチュームを身にまとい、総勢九人。チームの愛称は「フジ・レッド・フェアリー」(富士の赤い妖精(ようせい))といいます。

消防音楽隊に属するとはいえ、昼間は仕事を持ち、毎週木曜日の夜練習するというボランティア。

行事があると日曜日もつぶれることがありますが、「自分の好きなことですからね」と、くりくりした目で笑う。ふだんは、幼児に「のりこせんせい」と呼ばれる幼稚園の先生です。

「市民の皆さんに早く親しまれるようになりたい」との抱負。消防音楽隊のファンはぐっとふえることでしょう。

あの人・この人・こんなこと

サクラ草を植える

鈴木孝蔵さん(中島下)

下堀の浅間橋(米之宮浅間神社北側)から北を見ると、川端に咲くピンクのサクラ草が、道行く人の心をなごませてくれます。

鈴木孝蔵さんは、近所の人の協力を得て川ふちの雑草を抜き、三年がかりできれいな川辺をつくりました。「みんなが喜んでくれるのがうれしいね」と手入れに余念のない毎日です。

七宝焼でストレス解消

斉藤信子さん(富士町)

斉藤さんは、昭和五十三年に成人学校で七宝焼を習って以来、七宝焼のとりことなりました。

七宝焼は、焼くときの微妙な違いで、思った色がなかなか出ません。

その辺が逆に魅力でもありますが、斉藤さんにとっては「煩わしいことを忘れて没頭できるのが一番の魅力」とのこと。七宝焼はストレスの解消にも有効のようです。

祭りは粋(いき)だよ

富士町拓栄会の皆さん

「トントンチキチン」という甲子さんのおはやしが聞こえれば、駅北は真夏。ことしも八月四・五日、甲子祭が盛大に行われました。

甲子祭を運営し、おはやしを伝承しているのは富士町拓栄会の皆さん、「祭りは粋(いき)」とばかり気っ風のよい人ばかりです。

おはやしを習いたい子供は、町外からも受け付けています。